

NEWS LETTER

平成30年 8月29日
一般財団法人岩手経済研究所

「いわて景気ウォッチャー調査」 ー平成30年7月調査ー について

一般財団法人岩手経済研究所（理事長：高橋真裕）は、定例の「いわて景気ウォッチャー調査（平成30年7月調査）」を実施しました。

本調査の結果は以下のとおりです。

現状判断 49.3

※前回（平成30年4月）調査比2.7ポイント低下

先行き判断 47.8

※同3.0ポイント低下

本調査の概要は別紙「いわて景気ウォッチャー調査結果 ー平成30年7月調査ー」のとおりです。また、詳しくは8月31日発行の当研究所機関誌「岩手経済研究 平成30年9月号（No.430）」にも掲載いたします。

平成30年 8 月 29日

いわて景気ウォッチャー調査

～ 平成30年 7 月調査 ～

盛岡市中ノ橋通一丁目 2 番16号
岩手銀行中ノ橋支店 3 階

一般財団法人 岩手経済研究所
理事長 高橋 真裕

(担当 地域経済調査部 阿部 瑛子)
TEL 019-622-1212

< 調査結果の概要 >

1. 県全体の状況

景況判断は現状、先行きともに50を下回る

(1) 現状判断 ～前回から後退し50を下回る～

3カ月前と比較した県内の景気の現状判断指数は、前回(52.0)に比べ2.7ポイント低下の49.3となった。前回調査で8期(2年)ぶりに景況感の分かれ目とされる50を上回ったものの、再び50を下回った。東芝メモリの企業誘致などによる好影響がみられる一方、天候の影響により売上げが伸びなかったことなどから、県内の景気ウォッチャーは景気の動きが弱いと感じている(図表1、2)。

回答構成比は「変わらない」が41.6%(前回49.0%)と減少したが、「良くなっている」「やや良くなっている」が28.7%(同26.0%)、「やや悪くなっている」「悪くなっている」は29.7%(同25.0%)とともに増加した。

分野別にみると、家計動向関連指数は47.1(前回比1.8ポイント低下)、企業動向関連指数は53.3(同6.1ポイント低下)、雇用関連指数は55.6(同0.7ポイント低下)となりいずれも低下した。

家計動向関連では、本県への企業誘致や生産集約の効果を実感する回答があった一方で、猛暑などの天候の影響を示す回答もみられた。企業動向関連では、製造業の一部で好調な受注を示す回答がある一方、建設関連の需要減少を憂慮する声も聞かれた。雇用関連では、雇用の改善基調が続いていることを裏付ける回答が多数みられた。

(2) 先行き見通し ～3期ぶりに50を下回る～

2～3カ月先の県内の景気の先行き判断指数は、47.8と前回(50.8)に比べ3.0ポイント低下し、3期ぶりに50を下回った(図表3、4)。

回答構成比は「良くなる」「やや良くなる」が16.8%(前回23.0%)と減少したが、「変わらない」が55.4%(同54.0%)、「やや悪くなる」「悪くなる」は27.7%(同23.0%)とともに増加した。

分野別では、家計動向関連指数は48.9(前回比0.4ポイント上昇)と前回よりわずかに上昇したものの、企業動向関連指数は47.8(同11.6ポイント低下)、雇用関連指数も38.9(同4.9ポイント低下)とそれぞれ前回より低下した。

猛暑や豪雨災害などの景気への影響を不安視する声が聞かれたほか、ガソリンなどの物価高騰に対する懸念や県内企業の雇用確保における厳しい見方が景気判断指数を押し下げた。

2. 地域別の状況

地域別では、現状は沿岸、県北地域で50を上回り、先行きは県南地域のみ50を上回った(図表5)。

現状判断は、県央地域が45.4(前回比6.7ポイント低下)、県南地域が48.6(同3.4ポイント低下)、沿岸地域が57.8(同9.3ポイント上昇)、県北地域が52.5(同5.0ポイント低下)となった。

先行き判断は、県央地域が48.7(同1.5ポイント上昇)となり、県南地域が51.4(同4.0ポイント低下)、沿岸地域が40.6(同7.9ポイント低下)、県北地域は42.5(同7.5ポイント低下)となった。

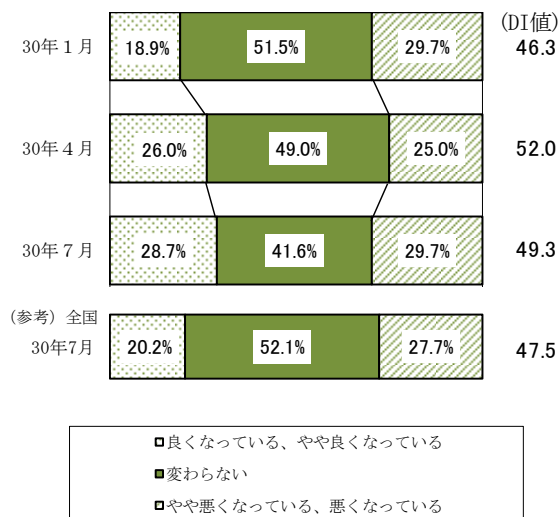
県央地域では「豪雨災害による観光客減少への懸念」、県南地域では「増税前の不動産取引の需要増加」、沿岸地域では「フェリー就航後の厳しい見通し」、県北地域では「店舗の閉店による地域経済の縮小に対する危惧」などを示す回答があった。

(ウォッチャーのコメントは参考1、調査要領については参考2をそれぞれご参照ください。)

図表1 景気の現状判断指数（DI）の内訳

分野	30年 1月	30年 4月	30年 7月	増減
合計	46.3	52.0	49.3	△ 2.7
家計動向関連	41.7	48.9	47.1	△ 1.8
小売関連	39.3	47.3	46.4	△ 0.9
飲食関連	41.7	63.6	48.1	△ 15.5
サービス関連	39.3	42.0	43.8	1.8
住宅関連	56.3	53.6	56.3	2.7
企業動向関連	53.1	59.4	53.3	△ 6.1
雇用関連	65.6	56.3	55.6	△ 0.7

図表2 回答構成比（現状判断）

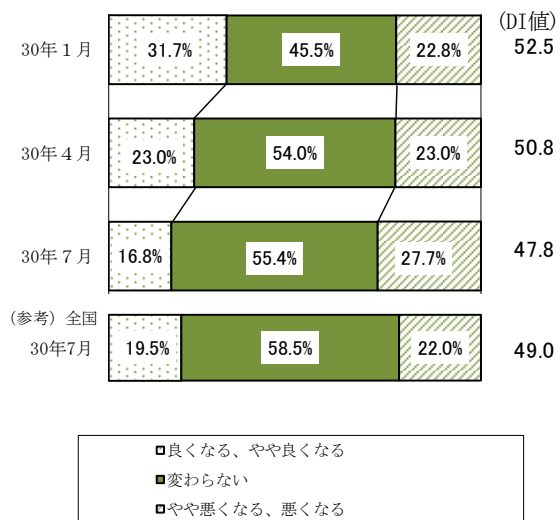


(注) 単位未満四捨五入につき合計が100%とならない場合がある

図表3 景気の先行き判断指数（DI）の内訳

分野	30年 1月	30年 4月	30年 7月	増減
合計	52.5	50.8	47.8	△ 3.0
家計動向関連	50.4	48.5	48.9	0.4
小売関連	42.9	46.4	43.8	△ 2.6
飲食関連	60.4	52.3	61.5	9.2
サービス関連	50.0	48.9	45.0	△ 3.9
住宅関連	62.5	50.0	56.3	6.3
企業動向関連	55.2	59.4	47.8	△ 11.6
雇用関連	62.5	43.8	38.9	△ 4.9

図表4 回答構成比（先行き見通し）



(注) 単位未満四捨五入につき合計が100%とならない場合がある

図表5 地域別の景気判断指数

地域	景気の現状判断指数（DI）				景気の先行き判断指数（DI）			
	30年 1月	30年 4月	30年 7月	増減	30年 1月	30年 4月	30年 7月	増減
合計	46.3	52.0	49.3	△ 2.7	52.5	50.8	47.8	△ 3.0
県央地域	41.2	52.1	45.4	△ 6.7	54.1	47.2	48.7	1.5
県南地域	49.3	52.0	48.6	△ 3.4	53.4	55.4	51.4	△ 4.0
沿岸地域	47.1	48.5	57.8	9.3	50.0	48.5	40.6	△ 7.9
県北地域	52.5	57.5	52.5	△ 5.0	47.5	50.0	42.5	△ 7.5

【参考 1 : 景気ウォッチャーの主なコメント】

	分野	判断	判断の理由
現 状	家計 動向 関連	やや良	ウニ祭りが盛況だったほか、ウニの価格が上昇しており地域にとって好影響と感じている。また、盛岡や八戸など地域外からの団体客が多く売上げが好調である。(県北：飲食業)
		やや良	東芝メモリとトヨタ自動車東日本関連の社員の転入に伴う物件照会などが増え始めた。今後はさらに多くの転入が見込まれ、問い合わせの増加などが期待される。(県南：不動産取引業)
		不変	猛暑によりエアコン関連の売上げが伸びている一方、人手不足で断らざるを得ない業務がある。人手不足による厳しい状況が続いており、解決を急ぎたいと感じている。(県央：燃料小売業)
		不変	東北絆まつりなどイベントはあったものの、盛岡市外の周辺地域までは観光客などの波及効果は感じられない。(県央：観光事業)
		やや悪	6月は気温の低い日が多く、夏物の売上げが思ったほど伸びなかった。春先もあまり良くなかったが、さらに厳しい状況である。(沿岸：大型小売店)
		やや悪	連日の暑さで人通りが少なく、例年より売上げが落ち込んでいる。また、厨房内の暑さもあり、疲労予防のため店を早く閉める日がある。(県南：飲食業)
	企業 動向 関連	やや良	様々な業種から受注しているが、総じて期末(9月)にかけて受注がプラスとなる見込みである。(県央：機械製造業)
		不変	公共事業の地元での発注がほとんどない状態が続いているほか、民間工事も芳しくない。(県北：建設業)
	雇用 関連	やや良	求人広告は少しずつ増加しており、雇用状況は改善していると思われる。(県南：新聞求人広告)
		不変	学生の内定獲得が例年より早まっているほか、企業の採用活動も堅調である。売り手市場が続いている。(沿岸：学校就業担当)
先 行 き	家計 動向 関連	やや良	猛暑の影響で、駅前ではビールなどを中心に夜の飲食が好調となっており、暑い日が続けば好調を維持できるのではないかと予想している。(県央：飲食業)
		やや良	来年10月の消費税増税を控え、不動産関連の駆け込み需要があると考えられる。(県南：不動産取引業)
		不変	復興工事は減少傾向であり、今以上に景気が良くなる材料に乏しいのが現状である。宮古・室蘭フェリーも現状のダイヤでは地元への経済効果はほとんどないと考えている。(沿岸：旅館業)
		やや悪	商店街での大きなイベントを予定しており集客が見込めるものの、西日本の豪雨災害による景気への影響が懸念される。(県央：商店街組合)
		やや悪	花巻-台湾定期便や宮古・室蘭フェリーなどによって観光人口の増加が期待されるが、猛暑や台風など天候が懸念材料である。また、鉄道やバス、レンタカーといった二次交通によるアクセスの改善が課題と考えている。(県南：飲食業)
		やや悪	地域内で衣料品販売店、ガソリンスタンドの閉店の話が聞こえてきている。特に個人店の経営が厳しいようである。(県北：クリーニング業)
	企業 動向 関連	やや良	官公庁や大手企業でボーナス支給があったことやお盆商戦が控えていることから、消費の拡大が見込まれる。(県南：食品製造業)
		やや悪	人手不足のほかガソリンなどの物価が上がっており、厳しい見通しである。(県南：肉加工品製造業)
	雇用 関連	不変	首都圏からの求人が引き続き堅調となっている一方で、地域の人手不足は解消される見込みはなく今後も続くとみている。(県南：学校就業担当)
		悪	県内企業の求人が活発化しているが、動き出しが遅いため他県の企業から内定を受けた学生がほとんどとなっている。学生からは、もっと早い時期に求人があればよかったという声が複数あった。(県央：学校就業担当)

【参考2】

＜ 調査要領 ＞

1. 調査内容

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由及び具体的状況の説明
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3) の理由

※ (1)、(3) は5段階評価による回答とする。

2. 調査時期

平成30年7月

3. 調査対象者・方法

県内の景気の動きを観察できる立場の方々110名への郵送、電話による聴取（内容は下表のとおり）。

調査対象者の分野・業種

分野 (調査対象者数)	調査対象者の代表的な業種
家計動向関連 (76名)	
小売関連 (30名)	百貨店、スーパー、コンビニ、 一般小売店、自動車販売など
飲食関連 (16名)	飲食店、割烹・料理店、スナック、 外食チェーンなど
サービス関連 (22名)	ホテル・旅館、クリーニング店、 ガソリンスタンド、タクシーなど
住宅関連 (8名)	建設設計事務所、不動産販売、 住宅販売など
企業動向関連 (24名)	製造業、広告代理店、運輸業、 農林水産業など
雇用関連 (10名)	人材派遣、学校就業関係者、 求人広告など

調査対象地域の区分

地域 (調査対象者数)	市町村
県央地域 (39名)	盛岡市、八幡平市、滝沢市、 雫石町、葛巻町、岩手町、 紫波町、矢巾町
県南地域 (42名)	花巻市、北上市、遠野市、 一関市、奥州市、西和賀町、 金ケ崎町、平泉町
沿岸地域 (19名)	宮古市、大船渡市、陸前高田市、 釜石市、住田町、大槌町、 山田町、岩泉町、田野畑村
県北地域 (10名)	久慈市、二戸市、普代村、 軽米町、野田村、九戸村、 洋野町、一戸町

4. 回答状況

有効回答数 101

回収率 91.8%

5. 指数（DI値）の算出方法

5段階の判断に、それぞれ下表のとおり点数を与え、これらに各判断の構成比（%）を乗じてDI値（Diffusion Index）を算出する。DI値は50を目安としており、50を上回っていれば景気の上昇局面、下回っていれば下降局面と判断する。

指数（DI値）点数表

回答区分	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
点数	+ 1.00	+ 0.75	+ 0.50	+ 0.25	0.00